

5 同和問題



同和問題は、日本固有の人権問題です。長年の取組みにより、^{かんきょう}環境整備などの面では、着実に改善されてきているものの、社会にひそむ差別意識の解消が課題として残されています。また、インターネット^{けいじばん}掲示板への差別的な書き込みが増加しているなど、新たな問題も生じています。

同和問題の解決に向けて、一人ひとりが自分にも関係がある問題としてとらえ、正しい理解と認識を深めていくことが大切です。

同和問題ってなに？

日本社会の歴史的^{けいり}経緯の過程で形づくられてきた身分的差別により、一部の人が、住居や職業、結婚などを制限される差別を受けてきました。明治になって、いわゆる「身分解放令」が出され、制度上の差別はなくなりましたが、現在でも特定の地域出身者であることやそこに住んでいることを理由に、結婚や就職で理不尽な差別を受けることがあります。いわれなき差別、それが同和問題です。

同和問題に関する差別意識

平成14(2002)年3月までの33年間にわたる特別対策事業の^{じっし}実施と地区住民の自主的な努力によって、同和地区・被差別部落における生活^{かんきょう}環境などは改善され、様々な面^{そんざい}で存在していた格差は大きく解消されました。



しかし、結婚・就職差別などに見られるように、同和問題に関する^{へんけん}偏見や差別意識は依然として存在しています。最近では、同和地区・被差別部落出身者を誹謗・中傷する表現や、同和地区・被差別部落の所在を示す書き込みがインターネット上に^{けいじ}掲示されるということも起きています。

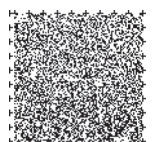
Q そっとしておけば、自然に差別はなくなるのでは？

A. 同和地区・被差別部落の人々に対する差別意識が社会の中に存在する限り、同和問題に対して一切無関係に過ごしていくことは不可能です。またこれまでの調査から、親や親戚、あるいは近所や職場などから、あやふやな情報やうわさ話で^{まちが}間違った知識や偏見を与えられることが多く、そっとしていても差別はなくなりません。



Q 引っ越してしまえば差別はなくなるのでは？

A. 住み慣れた地域からの引っ越しを強要することは、思い出深いふるさとから人々を追いやり、友人や隣近所の人々との人間関係を^{きず}引き裂いてしまうことです。どこに住むかということは、その人の自由です。転居までして、自分の出身地を隠し続けなければならないこと自体が問題です。また、引っ越しをしても身元調査などで出身地を調べられ、差別を受けることがあります。だから、差別を根本からなくしていくことが大切です。



5 同和問題

●差別表現

内閣府の調査で、「同和問題に関し、どのような問題が起きているか」の問いに対しては、結婚問題や就職問題のほかに、「差別的な言動をすること」「差別的な落書きをすること」を挙げた人も多くいます。

広島県では、平成17(2005)年3月から「同和問題」に対する差別意識を利用して、特定の個人を名指して中傷する紙片が、路上などに大量に撒かれる事案が継続して発生しています。

このような行為は、人間の尊厳を無視し、基本的人権を踏みしめるものであり、また同和問題に対する誤った意識を助長する悪質な行為です。

●身元調査は、「しない! 依頼しない! 協力しない!」

身元調査とは、結婚や就職などの際に、生まれ、国籍、家柄などの本人に関する情報を、本人の知らないところで、本人に分からないように、戸籍や住民票を取得したり、近所の人などへ聞き合わせたりして調べることです。

本人にはどうすることもできない「生まれ」や「障害の有無」などを調べることは、同和地区・被差別部落の出身者や障害者などが重大な人権侵害を受けることにつながります。

●えせ同和行為

えせ同和行为とは、同和問題の解決のためと称して、不当な寄付を募ったり、高額な書籍を売り付けたりする行為を指します。

このような行為は、同和問題に対する誤った意識を植え付け、同和問題の解決を遅らせる大きな原因となっています。不当な要求には、毅然とした態度で対応することが大切です。

●公正な採用選考

採用選考に当たって、本人の適性や能力に関係なく、同和地区・被差別部落出身者か否かで採否を決めることは、重大な人権侵害です。

応募者の基本的人権を尊重し、「本籍地」や「家族の状況・職業」など本人に責任のない事項や、「思想・信条」など採用選考と関係がない事項を、応募用紙等に記載させたり面接で尋ねることのないよう十分に配慮し、公正な採用選考を行うことが必要です。

4コマで知る!

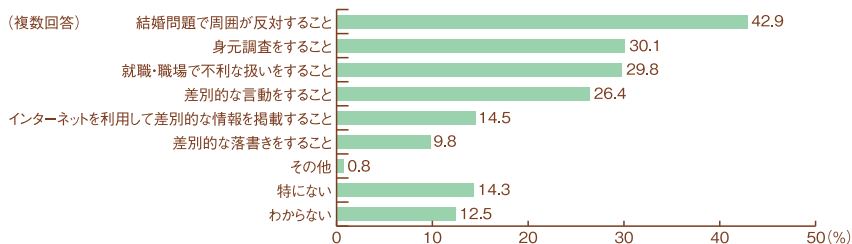
身近な同和問題

日常に潜む同和問題をわかりやすく紹介します。



就職は、本人の適性や能力により採否が判断されるべきものです。重大な人権侵害につながる身元調査については、「しない! 依頼しない! 協力しない!」を実践しましょう。

同和問題について、どのような問題が起きていると思いますか?



差別意識の解消に向けて

同和問題は、いわれなき差別です。

同和問題を解決するためには、この問題に関して、私たち自身が自分にも関係がある問題として向き合っていくことが大切です。私たち一人ひとりが、まわりに合わせて態度を決めるのではなく、同和問題を正しく理解し、「差別しない、差別を許さない」という認識をもって行動することが大切です。

